



安心院縄文会 会長
安倍 邦昭

機関誌「安心院縄文」 第37集の発刊に寄せて

今年も会員各位、そして、地域の人々を始め、関係各位のご協力、ご支援をいただき、様々な活動・機関誌「安心院縄文」第37集の発行をすることができました。厚く御礼申し上げます。

今年度の歴史探訪（研修旅行）は、2回がありました。

夏の歴史探訪は、久留米の高良大社を訪ねました。

高良大社は、367年に玉垂命が高良山に鎮座された時に始まり、宇佐に比売大神が降臨された時期とほぼ同じ歴史を数えます。

祭神は、高良玉垂命・八幡大神・住吉大神であり、673年高良神は、仏教帰依の託宣をし、以後、高良山には多くの寺が建立され、神仏習合の山でありました。

この様に、宇佐神宮（本殿に高良大明神を祀る）と、非常に縁のある神社であります。又、筑後平野を眼下に眺み、戦略的要衝で古代から地元の尊崇を得ております。

春の研修旅行は、八女の岩戸山古墳・広川町の石人山古墳を訪れました。

5～6世紀にかけて、九州の一大勢力を誇った筑紫の君一族の本拠地が、これらの古墳がある八女（広川）地方であります。

その中で、岩戸山古墳（前長135mの前方後円墳）は、古代史の大事件である527～8年のいわゆる「磐井の乱」の主人公磐井の墓と目されています。

又、周辺には、大型の前方後円墳が多数あり、往時の有力勢力の存在を裏付けることとなっています。

この2回の研修旅行は、北部九州の古代一大勢力の姿を知る一助となりました。

文化講演会は2回実施することができました。

1回目は、神戸輝夫大分大学名誉教授にお願ひし「賀来飛霞と広瀬旭荘の由布登山」と

題して、講演いただきました。

幕末～明治にかけての郷土の偉人賀来飛霞と日田の儒学者広瀬旭荘（淡窓の弟）二人の豊の国の名峰由布岳登山記を解説いただきました。

飛霞については、馴染み深い人物であります。旭荘については、資料も少なく知名度も高くない人物であります。大阪で儒学塾を開き、明治の人々に多大な影響を与えた事、又、人間味溢れるエピソードのご披露により魅力的な人物であることを知ることができました。

2回目は、宇佐で“伝統と文化”を勢力的に探求・広報活動を続けておられる森恵さんをお招きし、「宇佐・国東ミステリーツアー」と題して、著作の「森恵のつつうらうら」を下敷きに、宇佐・安心院の歴史・文化をご紹介いただきました。

両講演会共、広く会員外の人々にもご参加（1回目45名内21名、2回目66名内45名）いただき盛会で終えることができました。

この機関誌には、佐田小学校の児童の活動をご紹介します。

佐田小学校の4・5・6年生が、佐田学と称して地元の偉人である賀来飛霞・惟熊を学習し、佐田地区ふれあい文化祭で発表した内容を掲載いたしました。

昨年は、津房小学校の小野西州の学習の成果をご紹介しましたが、この機関誌を通して、小学生達の郷土への関わりについて少しでも知っていただければ幸いです。

その他、当会の活動としては、今回も各種のボランティア活動に参加させていただきました。詳細は、縄文会の活動のページを掲載しております。

今回も又、この機関紙の発行に当り、ご支援ご協力いただきました各企業、団体の皆様には厚く御礼申し上げます。

又、精力的に会の活動にご参加、ご尽力いただきました会員の皆様にも感謝申し上げますと共に、今後共、宜敷くお願い申し上げます。